とうけい かわら版
総合企画局情報統計課
平成 10 年 1 月 8 日
（No. 93）

新成人の人口にも大学（短大）生の影響！

―左京区で男子の割合が高く，東山区で女子の割合が高い―

平成 10 年 1 月 15 日現在の京都市の新成人の人口(昭和 52 年 1 月 16 日から 53 年 1 月 15 日までに生まれた人)は 3 万 400 人(推計)で，前年の 3 万 2700 人と比べ 2300 人減少しています。行政区別にみますと，伏見区が 5200 人で最も多く，次いで左京区(4600 人)，右京区(4100 人)と続いています。

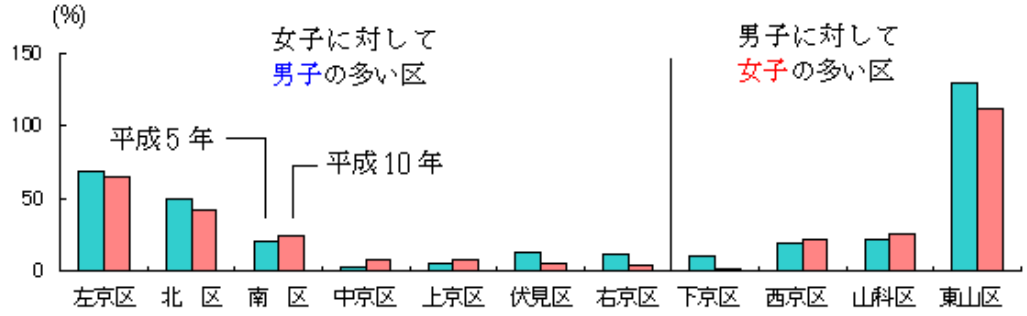
男女別にみますと，男子は 1 万 5800 人，女子は 1 万 4600 人で，男子の方が 1200 人多くなっています。女子に対して男子の割合が高い区をみますと，最も高いのは左京区で，女子に対して 64.1%多くなっており，次いで北区(41.9％)，南区(24.1％)となっています。同様に，男子に対して女子の割合が高い区は，男子の 2 倍以上の東山区(111.3%)を筆頭に，山科区(25.5％)，西京区(21.9%)の順に高くなっており，大学(短大)生の影響がうかがえます。

注) 男(女)子に対する女(男)子の割合は人単位の人口から算出しています。

表―1 新成人の人口（推計）

（単位 100人） 平成10年1月15日現在

行政区	計	男	女
総 数	304	158	146
北 区	38	22	16
上京区	23	12	11
左京区	46	28	17
中京区	17	9	8
東山区	14	4	9
山科区	24	11	13
下京区	12	6	6
南 区	14	8	6
右京区	41	21	20
西京区	23	11	13
伏見区	52	26	25

注） 数値は 100 人単位で四捨五入をしていますので，内訳の合計が総数に一致しない場合があります。

図―1 行政区別男女の比較（平成5年，10 年）